

2 学期始業式講話 まわりの人の 良さ・らしさを 見つけ、

伝えあう 2 学期に

みなさん、おはようございます。夏休み、楽しかった？
校長先生は、皆さんと会えてとっても嬉しいです。さあ、今日から2学期が始まります。

校長先生が今日皆さんにお話したいのはこの方のこと。知ってる？
女子レスリングの、元木 咲良（もとき さくら）選手です。この夏のパリオリンピック女子レスリング
63キログラム級の金メダリスト。レスリング、強かったよね。その精鋭達の中でも特に、元木選手に校長先生が惹かれたのは、金メダルを取った人だからではなくてね。

実はこの方、泣き虫で心配事を良くないほうにばかり考えちゃう、とっても自分に自信が無い方なんだって。実力は元木選手の方が勝る選手との試合でも、自分が強いという自信が持てなくて、怖くなって技が仕掛けられず、逆転負けしてしまうということも。オリンピック選手に決まってからも、「自分なんかが代表になって、いいんだろうか」と悩んだり。

その弱さがとても意外で、でも、校長先生にも同じようなところがあるなあって、凄く親しみがわいてね。もっとこの方を知りたいなあと思ったのです。

元木選手の涙は、3歳の時のデビュー戦にはもう、あったのだそうです。
元オリンピック代表のお父さんの影響で、地元のレスリングクラブに入った直後の試合では、同い年の男の子を前に怖くなって、泣きながら逃げ出し、棄権しちゃったんだって。
レスリングの名門中学・高校に進んでからも、いつも結果は2位か3位ばかり。
昨年9月にセルビアという国で行われた世界選手権という大きな大会でも、見事2位になってパリオリンピック日本代表の座を射止めることができたのだけれど、その時も泣いていたのだそうです。勿論、うれし涙なんかではない。実力者がそろそろレスリング女子代表の6人で唯一、世界選手権で1位をとったことが無い選手になってしまったから、です。

そんな元木選手だったのに、結局今まで続けてこられたんだよね。
逆に、何で辞めずに続けられたんだろう？ そして、どうしてオリンピックって一番緊張する大舞台で力を発揮できて、金メダルをとることができたんだろう。 何でだと思う？

負ける度に「自分には才能がない」と泣き、数日、口もきけなくなってしまう元木選手に、中学当時の監督だった方は、こんなことを言われたそうです。

「負けてから、努力して、はい上がるのが、お前のペースなんだよ」

監督の言葉に出会って、壁にぶちあたっても、逃げて、向かっていくのが自分だと、元木選手はレスリングの研究を始めたのだそうです。

苦難は続き、大学でも大きな怪我をしてしまうのですが、その時も「この世の終わり」と思うぐらい落ち込んだそうです。でも、そんな時も元木選手を両親が励まし、コーチやトレーナーさんが支え、元木選手はだんだんと、休む期間を研究の絶好の機会ととらえるようになったそうです。

朝から晩まで海外選手の試合の映像を見たり、新しい技の勉強をしたりしました。そして悔しさを練習の原動力にして猛練習を再開すると、レスリングをすることが本当に楽しくなって、いつの間にか研究したことを書いたノートは20冊を超え、得意の低いタックルをかけるパターンは、なんと30にまで増えていったそうです。

大怪我から復帰し、自分の得意技を磨き、オリンピックへの切符をつかむ中で元木選手が気付いたのは、「自信が無いことも自分の良さ」ということ。元木選手は言ったそうです。「欠点から抜け出したいと思ってきたけれど、最近はそれもプラスに考えて。自信があれば練習はしない。不安があるから研究する。マイナス思考も、自分の1つの武器なのかなと」と。

元木選手という人は、相手の良さを見抜くので、その良さを持たない自分を気にしてしまうと、どんどん自分自身を見失ってしまう方なのかもしれない。だけど、納得できるものが自分の中に座ると、他の誰よりも集中してとことん取り組み、自分の持てる力を最高に発揮していく人なのではないかと思います。

そして、そういった、本人も気づいていない元木選手の「らしさ」を、出会った監督やコーチ、トレーナーさん、ご両親は分かっている、それを生かす言葉を送ってくれた。「おまえはそれでいい。それがおまえの良さなんだ」と。

監督凄い。コーチ、トレーナーさんありがとう。そして、ご両親がいてくれたから、自信の無い固まりのような元木選手も、自分を嫌いになりきることなく踏ん張れて、ついに自分の力を出し切れる時を得たのだと、校長先生は思うのです。

自分の良さ、自分らしさは 自分ではなかなか見えない。いいところって、その人にとって、当たり前になってしまふから、誰かが「それ、いいね」と教えてくれないと、自分が良いのだと分からずに過ぎていってしまう。

けれど、悪いところ、うまくないところは、痛みとなって自分に返ってくるからすぐ気がついて、「自分は駄目だなあ」なんて思っちゃう。

元木選手の幸せは、近くの人が元木選手の良さをちゃんと見ていて、そして元木選手自身に「伝えてくれていた」こと。「おまえには、とってもいいところがあるんだよ」って。

私たちだって、そばにいる人に自分の良さを信じてもらえていたら、そして教えてもらえたら、自信を持てると思わない？

「Aさんは、あんまり意見とか言わないけれど、自分の当番の仕事は絶対忘れないから、信頼できるなあ」とか、

「E君は、困っているのを手伝うと、必ず“ありがとう”って言ってくれる。嬉しいんだよね」とか。

それまで思いもしなかった自分らしさに気がついて、

駄目な自分も含めて、自分を好きになれる気がしませんか？

2学期、みなさん、お友達の良さ、らしさをたくさん見つけて、そしてそれを是非、その人に伝えてあげてください。そうすることで、自分のことを好きでいられる人が、少しずつでも増えていけばいいな。また、自分の良さを見てくれる人のことは、きっと好きになる。

そんな、互いの「らしさ」を認めあえる人たちが増えていけば、いつか私が心から願う、「自分のことを好きでいられる学校」に繋がると、校長先生は思うのです。また、治田小学校の学校目標でもある「心豊かな子ども」にも、きっと繋がっていく。

2学期も、校長先生はもちろん、先生たちみんなで一生懸命、大好きなみんなの良さ、みんなのクラスのらしさを見つけて、伝えていくからね。

〈参照〉

- ・読売新聞オンライン「3歳の初戦は泣いて逃げ出す・代表唯一の「非世界女王」…挫折が武器のレスリング「さくら」、パリで開花へ」(著：上田惇史)
- ・日刊スポーツ 「金の元木咲良「自信がないことも自信に」マイナス思考を武器に親子2代の夢を成就」
- ・テレ玉 NEWS【報道特集】シリーズ「Road to Paris」② レスリング女子 元木咲良選手
- ・NHK 前橋 群馬 育英大学レスリング部 柳川美磨監督「メダリスト育成法」
- ・時事通信 「運動部磨き続けた技で頂点 元木、金メダルで親孝行ーレスリング女子〔五輪〕」

治田小金管バンド 県小学生バンドフェスティバル出場！

〈審査員講評〉

指揮者の先生のお顔は見えませんが、先生の体の動きと皆さんの音がぴったりあっていて、いい関係性ができているんだなと。柔らかいところとリズムミクな所の演奏も分けられてステキでした。トロンボーンのソロも、いい音で吹けていましたよ。

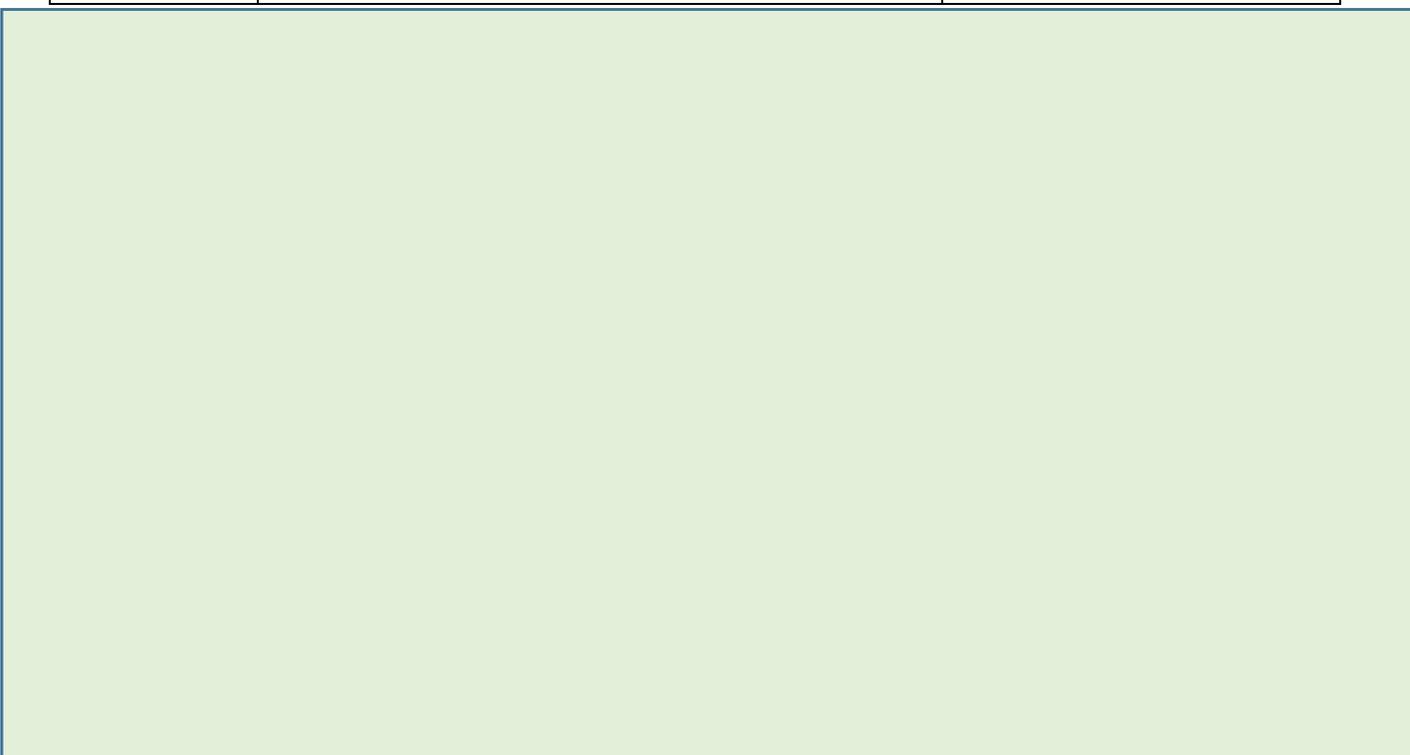


【9月の下校時刻】



【9月の予定】

9 / 2 (月)	避難訓練②	
3 (火)		
4 (水)	水曜日課	PTA理事会③
5 (木)	クラブ③	ALT 来校
6 (金)	フッ化物洗口	
9 (月)		
10 (火)		
11 (水)	全校授業研究会のため全校4時間 (6年1組公開)	
12 (木)	児童会④	ALT 来校
13 (金)	6年生理科学習	
16 (月祝)	金管バンド さざなみ音楽祭参加	
17 (火)		
18 (水)	交通安全教室	
19 (木)	音楽会ステージ練習開始 児童会⑧ ALT 来校	
20 (金)	なかよしパーク	
24 (火)		
25 (水)		
26 (木)	月曜日課	
27 (金)	6年西中田毎祭①見学	
30 (月)	秋の街頭指導	



夏休み中、ボランティアの方々が、草刈りに何度も足を運んでくださいました。
 地域の皆様には、いつも治田の子、治田小学校を大切に考えてくださり、大感激です。
 本当にありがとうございました。
 31日(土)には、保護者の皆様にはPTA作業でお世話になります。どうぞ宜しくお願いいたします。

